

## 進行期パーキンソン病におけるデバイス補助療法（LCIG/LDp-CDp）の治療満足度および継続・中断要因に関する患者アンケート調査について

青森県立中央病院 脳神経内科では、進行期パーキンソン病に対するデバイス補助療法（レボドパ・カルビドパ腸管内持続投与療法〔LCIG〕およびレボドパ・カルビドパ皮下持続投与療法〔LDp-CDp〕）を受けている患者さんを対象とした臨床研究を実施しています。パーキンソン病は進行性の神経変性疾患であり、進行期には運動症状の変動やジスキネジアなどにより、日常生活に大きな支障をきたすことがあります。LCIG や LDp-CDp といったデバイス補助療法は、これらの症状改善を目的として用いられていますが、治療の満足度や継続のしやすさ、患者さんやご家族の負担については、十分に明らかになっていない点もあります。

本研究では、診療の過程で得られた情報および質問紙調査の結果を用いて、治療満足度、症状改善の実感、治療継続に寄与する要因や中断に至った要因を、患者さんおよび介護者の視点から明らかにすることを目的としています。これにより、今後の治療選択支援や診療体制の改善につなげることを目指しています。本研究の対象となるのは、当院に通院中で、LCIG または LDp-CDp による治療を現在受けている、あるいは過去に受けたことのあるパーキンソン病患者さんです。研究に使用する情報は、年齢、性別、治療状況、生活環境、治療に関するご意見などであり、氏名や生年月日など、個人が特定される情報は一切含まれません。本研究では、新たな検査や追加の治療を行うことはなく、通常診療および質問紙調査によって得られた情報を用いて研究を行います。本研究は、関係する倫理審査委員会の承認を受けて実施されています。

本研究は、情報公開（オプトアウト）方式で実施されます。研究への参加を希望されない場合は、下記のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも、診療内容や今後の治療に不利益が生じることは一切ありません。研究成果は、個人が特定されない形で、学会発表や医学論文などを通じて公表され、今後のパーキンソン病診療の発展に役立てられる予定です。本研究に関してご不明な点やご質問がございましたら、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

主研究者・研究責任者  
青森県立中央病院 脳神経内科 上野達哉

電話番号 017-726-8111